

子どもたちを信じて 「待つ」ことの大切さ

内川 舜也さん（35・三郷明盛）



自分を見つめ直し、子どもたちを信じて見守り続ける内川さんに、教師として大切にしていることを聞きました。

楽しさから始まる 体づくり

昨年度まで、市の体力向上推進委員として、脳や心、体に刺激を与えて力を引き出す「コーディネーション・トレーニング」の普及活動をしてきました。これは、「できるようにすること」よりも、「体を動かすって楽しい」と感じてもらうことを大切にしました。運動です。委員を退いた今でも、体を動かすことを遠ざけず、「やってみよう」と思える気持ちの芽を育てられたらと思います。子どもたちと関わっています。将来、安曇野ハーフマラソンに出たり、AZCアリーナでスポーツ観戦をするような子が出てきたらうれしいです。

原点を見つめ直した1年

教師になって13年がたちましたが、10年目を終えた頃、「子どもたちが内に秘めた大切な思いを、集団生活のために犠牲にしているのか」と疑問を感じました。そのタイミングで現場を離れ、信濃教育会研究所で1年間、自身と深く向き合う時間を持ちました。その中で気づいたのは、「待つこと」の大切さ。

以前は、教師は子どもたちを引っぱっていく存在だと思っていましたが、今では子どもを信じて見守ることを大事にしています。もちろん必要な時は指導しますが、すぐに介入せず、言動の裏にある思いや願いに目を向けるようになりました。問いかけ方も以前とは変わってきていると実感しています。何が起きるか予測が難しいこれからの時代では、変化に対応する力が大切です。その方法は教科書には書かれていません。だからこそ、正解を出すことよりも、失敗や「わからない」と感じる経験を大切にしてほしいと思っています。安曇野には自然が多く、地域とのつながりも深いので、学校の外でもいろいろな体験ができます。それらを通して、失敗ややり直しを繰り返しながら学び続けることで、生きる力を育ててほしいです。私自身も、この正解のない教育の世界で、教師として学びを楽しみ続けたいと思っています。そして、その楽しさが子どもたちにも伝わっていくように、これからも一緒に過ごしていきます。

プロフィール

豊科北小学校勤務。

昨年度、市体力向上推進委員会の委員長を務める。

三郷の早起き野球でも活躍中。

柳ちゃんの成長を家族で見守る山崎さん。毎日の暮らしや子育てで感じていることを聞きました。

娘と歩む 家族の日々

田んぼから響いてくるカエルの大合唱を聞きながら家で過ごす家族の何気ない時間。私がここで暮らしてよかったと思う瞬間です。

家族3人で安曇野に暮らし、5年が経ちます。娘は生まれてすぐ、てんかんを発症し重い発作が続いていました。その後、詳しい検査で脳に腫瘍が



昨年娘がこども園に入園し、環境に変化がありました。入園式では静かに座っていられるか心配しましたが、きちんと座っている姿を見て、娘の成長を感じました。自然との触れ合いや同年代の友達と過ごす時間が増えたことで、刺激を受けてたくましく育ってくれています。

暮らしで感じる安曇野の恵み

安曇野で暮らしていると、自然の恵みを感じる場面がよくあります。雄大な北アルプスはもちろんですが、月や星が広がる夜空も同じくらいきれいで

プロフィール

夫・広樹さんとの結婚を機に安曇野へ移住。令和2年に柳ちゃんが生まれ、市内で看護師として働きながら子育てと仕事に全力で取り組む。

山崎 美苗さん（46・豊科田沢） 自然の恵みを感じながら重ねる 家族の歩み